

正しく学ぶ! 感染症から

「いのち」と「くらし」を守る講座

第12回

日本の自治体は新型コロナ・ワクチンに関する情報をどのように発信したのか? : 行動経済学とナッジの視点に基づく実態把握と評価

佐々木 周作 氏

東北学院大学経済学部 准教授
大阪大学感染症総合教育研究拠点 招へい准教授

申込不要

2022年3月25日(金) 19:00 ~ 20:00



講座概要

東北六県（青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）の自治体がホームページ上で提供した新型コロナ・ワクチン関連の情報を実態把握し、独自のチェックリストに基づき評価し点数化する試みを行った東北学院大学の佐々木研究室。計227の自治体のホームページを評価したところ得点は大きくばらついており、提供された情報の内容や質が自治体の間で大きく異なることが分かった。本講座では、チェックリストの背景にある行動経済学やナッジの考え方を解説するとともに、パンデミック下の自治体による適切な情報発信の実現に向けて何が必要かについて考察する。

CiDER（感染症総合教育研究拠点）とは

大阪大学は、新型コロナウイルス感染症の流行で浮き彫りとなった日本が抱える課題を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策のみならず、将来の感染症の脅威から人々の「いのち」と「くらし」を守ることを目指し、2021年4月に感染症総合教育研究拠点（Center for Infectious Disease Education and Research (CiDER)）を設置しました。CiDERでは、研究型総合大学の利点を活かし、感染症克服のための「オール阪大」の研究を推進し、ここで得られた基盤研究、学術研究の成果をもとに、感染症の克服へ向けての貢献を目指します。

講師

佐々木 周作 氏

東北学院大学経済学部 准教授
大阪大学感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門 行動経済学ユニット 招へい准教授

1984年、大阪府交野市生まれ。京都大学経済学部を卒業後、三菱東京UFJ銀行（現・三菱UFJ銀行）に入行。退職後、大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程にて、博士号（経済学）を取得。日本学術振興会特別研究員DC1及びPD・京都大学大学院経済学研究科特定講師を経て、現職。専門は、応用ミクロ計量経済学・行動経済学・実験経済学。行動経済学会の理事とともに、環境省・経済産業省・横浜市などの中央府省庁や地方自治体で有識者委員やアドバイザーを務める。

オンライン (YouTube) 参加はこちら→

<https://kc-ijp/activity/chogakko/cider/detail20220325.php>主 催
助 成CiDER (大阪大学感染症総合教育研究拠点), 一般社団法人ナレッジキャピタル
日本財団

問い合わせ

大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務室

☎ 06-6879-4903

✉ kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>

正しく学ぶ！感染症から

「いのち」と「くらし」を守る講座

当講座は、新型コロナウイルスを始めとする感染症の脅威から人々の「いのち」と「くらし」を守るために、科学的根拠に基づいた感染症対策やリスク、ワクチンの開発状況に加えて、感染禍が人々の行動に与えた影響の分析などの幅広い話題について、大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象にわかりやすく解説する全12回のオンラインプログラムです。



過去の講座はアーカイブで視聴できます

第1回

日本の高齢者の新型コロナ・ワクチン接種意向の強さ



「新規感染状況」と「接種の進捗状況」などのさまざまな要素が、日本の高齢者の新型コロナウイルスのワクチン接種に対する意向をどのように変化させるのか。感染症対策の検討にも役立つ行動経済学を学ぼう！

大阪大学感染症総合教育研究拠点
副拠点長・特任教授（常勤）

大竹 文雄

第2回

新型コロナウイルス感染経験者・医療従事者へのインタビューから見た現実



インタビューから分かったコロナ禍の実態を基に、講師それぞれの専門的立場（社会心理学・現象学・健康心理学・行動経済学）から、コロナ禍という社会現象を読み解く！

大阪大学大学院人間科学研究科
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点

教授 三浦 麻子
准教授 平井 啓
教授 村上 靖彦

第3回

ウイルス感染とワクチン—ウイルスと免疫の攻防—



ワクチンが効いたり、効かなかったりするのはなぜなのか？ 新型コロナウイルスに対してどのようなワクチンが作られているのか？ ウイルス感染から身を守る免疫系の働きを考えながら解説

大阪大学免疫学フロンティア研究センター
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点
特任准教授（常勤）

伊勢 渉

第4回

新型コロナ感染症対策の行動経済学



同じ情報内容でも提供のあり方やデザインが異なると、私たちは意思決定を変える傾向がある。この点について、学問的に明らかにしてきたのが行動経済学。新型コロナ対策に行動経済学はどのように使われているのか？

大阪大学感染症総合教育研究拠点
副拠点長・特任教授（常勤）

大竹 文雄

第5回

大規模集会における感染リスク：解決志向リスク学の実践



大規模集会における観客の感染リスクや対策の効果評価の事例を基に、社会における新型コロナウイルス感染症対策のあり方について考えよう！

大阪大学感染症総合教育研究拠点
特任教授（常勤）

村上 道夫

第6回

さまざまなケア、さまざまなケアの見方



ケアが何であって何でないのか。医療ケアだけでなく子ども食堂等地域社会における住民間のケア、心理臨床における「ケア」、ケアについての社会全体の意識といった広い視点から考えよう！

大阪大学大学院人間科学研究科
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点

教授 村上 靖彦
准教授 平井 啓
教授 三浦 麻子

第7回

ウイルス感染症の克服に向けて



生き物には必ずウイルスが潜んでいるけど、その中で病気を起こすウイルスはほんの一握り。ウイルスについて説明し、新型コロナウイルスの性質や状態と制御法開発の現状を紹介する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点
拠点長・特任教授（常勤）

松浦 善治

第8回

感染者数推移から解き明かす新型コロナの流行メカニズム



複数の地域におけるCOVID-19流行曲線の解析から新規感染者数の推移はゴッデル曲線に従うことが明らかになった。仮説の検証を通してCOVID-19の流行メカニズムを明らかにする試みを紹介。

大阪大学核物理研究センター センター長
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点

教授 中野 貴志

九州大学理学研究院 物理学部門
大阪大学感染症総合教育研究拠点

准教授 池田 陽一

第9回

新型コロナウイルス感染症と免疫応答



新型コロナウイルス感染症の理解にはウイルス側と免疫側の双方からの検討が必要。免疫がどのように新型コロナウイルスを攻撃するか、逆にウイルスがどのように免疫から逃れるかを紹介する。

大阪大学免疫学フロンティア研究センター
大阪大学微生物病研究所
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点
教授

荒瀬 尚

第10回

「研究成果」をどう伝え、どう受け止める？—新型コロナウィルス感染症にまつわる様々な事例から考える—



「研究成果」というものの曖昧さ、世の中に出る際の手続きやマスメディア報道の受け止め方について、国内外の具体的な事例を取り上げて解説する。

大阪大学感染症総合教育研究拠点
（兼）大阪大学社会技術共創研究センター

特任准教授（常勤） 井出 和希

大阪大学データリテラシーフロンティア機構
大阪大学社会技術共創研究センター
（兼）大阪大学感染症総合教育研究拠点

教授 岸本 充生

第11回

遺伝統計学と感染症ヒトゲノム研究



ヒトはなぜ病気にかかるのか？遺伝統計学を活用した大規模ヒトゲノム解析により、多彩な病気の感受性遺伝子が明らかになっている。遺伝統計解析の現状を解説する。

大阪大学大学院医学系研究科
（兼）大阪大学免疫学フロンティア研究センター

教授 岡田 随象

（兼）大阪大学 感染症総合教育研究拠点
（兼）理化学研究所生命医科学研究センター
チームリーダー

第12回

日本の自治体は新型コロナ・ワクチンに関する情報をどのように発信したのか？：行動経済学とナッジの視点に基づく実態把握と評価



チェックリストの背景にある行動経済学やナッジの考え方を解説するとともに、パンデミック下の自治体による適切な情報発信の実現に向けて何が必要かについて考察する

東北学院大学経済学部 准教授

大阪大学感染症総合教育研究拠点招へい准教授 佐々木 周作